



十戒実践講座

第二章 神の御名



あなたは、あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。

旧約聖書 出エジプト記20:3



「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。

新約聖書 ローマ人への手紙 10:13



かれこそは、アッラーであられる。かれの外に神はないのである。至高の王者、神聖にして平安の源であり、信仰を管理し、安全を守護なされ、偉力ならびなく全能で、限りなく尊い方であられる....最も美しい御名はかれの有である。

クアールーン 59:23-24



インドラ、ミトラ、ヴァルナ、アグニ
真理はひとつ 賢者たちはそれを様々に言う

リグ・ヴェーダ 1:164,46



ある人の名は、ただの名だけではなく、その人の性格すべてをあらわします。

真のキリスト教 300:1

第二章 神のみ名

さあ、王子よ、私は主のみ名を唱えましょう。注意深く、耳を傾けよ、そうすれば、恐れと悪はあなたから去ってゆく。

ユディシュティラ王子へのビーシュマの言葉 マハーバーラタ サバーパルヴァン 36:28

名は人の内的性質を表します

第一戒の学びで、「囚われの家、エジプトの地から連れ出してくれた」主なる神に焦点を当てました。その課題は自分達が仕えている神を見出し、名づけ、彼らにいかにも私達が「屈従する」ことに心と感情のエネルギーを費やしているかを観察するものでした。私たちをとらえ、ただ一人の真の神の存在に近づく邪魔をしている偽りの神がいました。ちっぽけな暴君が若い女性の子をとらえていた「ランペルスティルツキン」のように、偽りの神を名付けると、その囚われはたちまち消えてしまったことに気づいたでしょう。ランペルスティルツキンの童話では、小男は自分の名が見つかったとたん、取り乱して逃げ、二度ともどってきませんでした。その意地悪な男を正しく名付けることで、魔法は解け、若き女性は我が子を取り戻すことができました。

しかし、往々にして偽りの神を名付けることだけでは十分ではありません。たしかにそれは素晴らしい始まりではあるでしょうが、名付けられた後でも、偽りの神が去るのを拒み、私たちを奴隷とし続けるならば、さらなる助けが必要です。第二の戒が授けられたのは、そのためです。この戒では、偽りの神を見定め、名付けることから、ただ一人います真の神のみ名を呼ぶことに焦点を移します。この戒に移るとき、エマヌエル・スウェーデンボリイの次の教えを心に銘じると役に立ちます。「ある人の名とは、単なる名にとどまらず、その人の性格全てをあらわします」。(真のキリスト教 300:1)

多くの文化において、人につけられた名は、独自のもつ特性や特有の人格を意味します。例えば、アメリカインディアンの伝統では、子供に内的な性格の象徴を名付けます。—勇敢な鷲、笑う水、速い矢、平和の鳩です。アフリカでこのセミナーを行ったとき、調停者、誠意、知恵、歓迎、喜び、純真と名付けられた人たちに会いました。そこにいたとき、私たちは光栄にもサウダズニ(共に祈る)、サンダナニ(互いに愛する)というズール語の名を授かりました。ガーナのセミナーに出席していた4人のアメリカ人学生は、アニギェ・ンコアー(喜ばしい)、アスマドエ(平和)、アコワパ(善き心根)、アブタレ(忍耐)という名誉の名を与えられました。

2 より初期のアメリカインディアンの信仰では、人の名は魂のきわめて重要な部分と考えられていました。そのため、人の名を悪い心で扱くと、死にさえいたる物理的な傷を現に与えることができると信じられていました。同じように、古代イスラエル人は、(原始ヒンズー教徒やオーストラリアのアボリジニもそうですが)、人の名を出すことで祝福やのろいを与えることができると信じていました。そのため古の人々は、人の名を軽蔑し扱わないよう非常に気をつけており、特に神のみ名をむなしくしないよう気遣っていました。ジェームズ・フレーザー、金の花瓶;比較宗教学研究 Vol. 3 (New York: Macmillan, 1935), 318.

様々な宗教的伝統で同じような命名の過程を体験します。ユダヤ教の伝統では、新しく生まれた息子達は八日目の割礼時に名付けられます。モイル(字義は「割礼する者」)は、儀式の間に、子供の祖先達のヘブライ名を

呼びおこし、両親に子に名付けるように求めます。私たちが招かれ参列した儀式では、命名の前に、両親とその祖父母の名が呼ばれ、その意味が説明されました。子が命名される時になると、両親は、子の名は「ガブリエル」、つまり「神につくす者」だと述べました。ヒンズー教のしきたりでは、ジョッチ(字義は「光をもたらす者」)は、子供にその子の内的な気質または「神の性質」にちなんで、サンスクリット語の名前を授けます。あとで、その子が修道会へ入ろうとするなら、新しい性質をあらわす、新しい名が与えられます。同じように、キリスト教の幼児洗礼では、祭司または牧師は、たいてい「あなたは今この子に名付けますか？」と尋ねます。洗礼時に与えられる名は、親たちが子に望む、ある具体的な性格をあらわしています。そして後に、堅信礼では、子は再度新しい名を与えられます—それはたいていキリスト教の聖人の名です。これらたくさんの命名のしきたりは、黙示録の書に「新しい名」—新しい内なる性質—で見事に要約されています。

『わたしは勝利を得る者に隠れたマナを与える。また、彼に白い石を与える。その石には、それを受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が書かれている。』(黙示録 2:17)。

次の記事では、37歳の聖職者が、数年間にわたり、名が自分に与えた影響がいかに大きかったかを書いています。

名が内なる性質をあらわすことができるという考えをより具体的に示したものです。

自分の名とそれが自分、どういう意味があるかについて思い巡らすことで、今まで理解できなかったことが、すべて氷解しました。私の名は、私自身をあらわしており、みだりにしてはならないものでした。

昔はそうではありませんでした。若いころ、自分の名が好きになれずにいたころ、テレビ番組や映画で使われる自分の名を聞くと、困惑してさえました。ちょっと落ち着かず、不快に感じることさえありました。

しかし自分が育ち、自分とその名について学ぶにつれて変わってきます。私の名は「戦士」を意味し、5年生のときに教会の典礼集から、「戦士が忠実であるように」と題されたものが最初に好きになった賛美歌でした。この歌は力強く、勇敢なので好きだったのですが、こんな風に描かれています。:

戦士が忠実であるように、主の御前に我ら立つ
戦の最前線で、主の命を待ちながら...

私はこの歌が好きで(今でもそうですが)、五年生にはそのさわりの何小節かを家のピアノで奏でていました。たいてい自分に聞かせるためにです。

後でベティ・エディのベストセラー、「光に包まれて」(邦訳タイトル;死んで私が体験したこと)を読みました。その中ほどで、ベティは自分の臨死体験で会った、ある特別のタイプの天使に触れています。これらの天使たちは「戦士である天使」と呼ばれていると言います。誰も、この天使と結ばれており、いつも助けられています。特に困難な闘いに面して、「戦士である天使」の力を必要とするときはそうです。;そして彼らの力が発揮されるのは祈りを通してです。その闘いの天使は荘厳に見える、と彼女は言います。他の天使より、より大きく、よりたくましく、そして実際彼らは鎧と兜をまとっています。また動きは敏捷で、特筆すべきことの一つに、他の天使たちにまして、自信に満ちた物の言い方をするので、それにはどんな悪もひるんでしまいます。そして彼らはそれを知っているのです。

ベティは、これらの天使たちの顔にうかぶ深い思いやりの表情にも印象づけられています。彼女の体験では、ある秘密の使命を果たすため、ある方向へと飛んでゆくのをみえています。また彼らが発するのを見ますが、彼女も天使たちも、その使命を果たすまでは帰ってこないことがわかります。

私はベティ・エディが書いたこの闘いの天使たちの描写が大好きです。

それを友人に語るたびに、私は感動で胸がつまります。その理由の一つは、それが私がいつもそうでありたかった人-草の根から立ち上がった戦士-であるからです。そして、これは私のありたい天使です。

善い目的のための善い闘い、これを聞くと、うきうきします。正義を愛し、正しいことに与するのが好きです。自分が成長してきたこの数年の間、他人にいじめられた方を見ると、同情し、守ってあげたくくなりました。

これらの経験から、自分うまく名づけられたと確信し、自分の名を愛するようになりました。それは今までの私のすべてと、私が神聖であると思うことと、今ではなく、そうありたいと思う自分を、すべて体現してくれています。

私の名は、私には神聖であり、誰もみだりにすることはできません。

聖なる名

偉大な霊的なしきたりや、聖典では、神のみ名は常に神聖であり、それは神の神格を表しているからと、しています。

たとえば、旧約聖書では、神は、「不思議な助言者」、「力ある神」、「永遠の父」、「平和の君」と呼ばれています。(ごくわずかな例です) イスラム教の創始者であるモハメドは、クアルーン各章の最初をすべて、『慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。』という文句で始めています。この宗教を奉ずる方(ムスリム)は、「九十九の美しい名をもつアッラー」と崇めます。アッラーの数々の名も、エホバの名と同じく、神の内奥の性質をあらわします。

バガヴァッド・ギーターでは、「私のうちには、いくつもの性格が源としてある;分別、知恵、知性、忍耐、真理、自己抑制、平静」(10:4)。神聖とされるべきは、単なる名だけでなく、これらの性質です。バガヴァッド・ギーターという名すら神聖な意味を持っています。それは二つの言葉からなっており、「バガヴァッド」は「主」を、「ギーター」は「歌」を意味します。それゆえ、「バガヴァッド・ギーター」とは「神の歌」を意味します。

このセミナーで「聖なるみ名」について語るたびに、「イエス・キリスト」という名には特別の注意を払っています。そしてこの聖なる名には、途方もない力と重要性があることを説明しようとしています。最初の「イエス」という名は、ヘブライ語の「エホバが救う」ことを意味し、哀れみ深く、寛大で、「人を罪から救う」神の常に慈悲深い面に言及します。クリスマス物語が、天使がヨハネに語った言葉、『その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。』(マタイ1:21) それゆえ、「イエス」という名を考へるとき適切なことは、愛や善良さ、思いやり、慈悲、そして特に魂の救済です。これらすべての性質が、神の善を構成しています。

さて、次に聖なる名の、残り半分「キリスト」です。古代では、人が王に就任する際、儀式の中に油が頭に塗られるという部分がありました。この油を塗ることは、その個人が王国の統治者となるという公式の印でした。そのため、彼は「油塗られた者」と呼ばれます。「油塗られた」ことをギリシア語で「キリスト」といい、ヘブライ語では「メシア」と

いいます。そこで、イエスがイスラエルの王候補として認められたとき、人は彼を「メシア」または「キリスト」と呼びました。彼らは主を、イエス・油塗られた者、イエス・王となる者、キリストであるイエス、そして単に、イエス・キリストと呼びました。

たくさんの方が、イエスに油塗られた者、イスラエルの新王として人を導き、ローマへ勝利することを期待していましたが、イエスは言われます、「わたしの国はこの世のものではありません。」(ヨハネ18:36)。言い換えれば、イエスは霊界の法則を教えに来られたのであって、経済や政治の法則や民政を教えに来られたものではありません。主は霊的真理の教師になられ、天の王国で生きる道を示されました。地上の王が自然的な法で、王国を治めるように、神は霊的な法で、主の霊的王国を治めます。そのため、「キリスト」という名によって、「油塗られた者」— 私達すべてを治める神的法と考えれば適切です。これが、「キリスト」の名が何ゆえ、神の王としての面、すなわち神的法の教え、支配、統治に言及するかを述べています。「イエス」と「キリスト」という二つの名が結ばれて、一つの神聖な名となったとき、全宇宙の神的善(イエス)と、全宇宙の神的真理(キリスト)とを表したものと考えます。これらが宇宙全体にただ一人います真の神— すべての人々にあまねく永遠に存在する神、その性質であると考えます。ヘレン・ケラーは、こう書いています。了見のせまい人たちが、キリスト教徒でないものは罰せられると聞き、自然と私の魂は不快でした。というのは、私は真理のために生き、そして死んでいった異教の地のすばらしい人たちを知っていたからです。しかし、スウェーデンボリアの「天界と地獄」を読んで、「イエス」が行為のうちに働く神的善をあらわし、「キリスト」が神的真理を象徴していると聞いて、すべての人の心に、新しい考えと新しいのち、そして喜びが生み出されるのをみました。:そのため、神を信じ、正しく生きた人は決して非難されることはありません。

多くの人々がイエス・キリストを通しての救いにあずからないという考えでは、神「にはまた、この囲いに属さないほかの羊が」ある(ヨハネ 10:16)をより広く理解できません。主はすべての地に宗教を備えられ、どんな人種や信条であれ、正しく生きるということに忠実でありさえすれば、全く問題ではありません。すべての人が肝に命じるべきなのは、ただ信じるだけではなく、教えに従って生きることが宗教だということです。(Light in My Darkness, 74)

「神のみ名を呼ぶ」ことは、聖なる名を唱えることだけではありません— 神の性質が私達に宿るよう祈ることで。;イエス(神的善)・キリスト(神的真理)という聖なる名に含まれ、あらわされている性質を与えてくださるよう、神に祈ることで。愛、慈しみ、思いやり、忍耐、赦し、知性、勇気、強さ、平安という性質を求めて祈ります。これらの性質が神にあることを信じるだけでは十分ではありません;これらの性質が自分の生き方の中味となるよう祈らねばなりません。ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。(ヨハネ1:14)

神のみ名を呼ぶ

この戒においては、私達はただ一人います真の神の様々な性質を、自らに映し出すように求められます。これは神的善(愛・慈しみ・同情・赦し等)のすべて、そして神的真理(知恵・知性・分別・認識等)のすべてに関連したものが含まれることとなります。あなたの信仰が、「最も美しい凡ての御名はアッラーに属する。それでこれら(の御名)で、かれを呼びなさい。」または、「イエスのみ名を呼びなさい、そうすればあなたは救われます」と教えるならば、私達すべては、神の名を呼ぶことを求められています。すなわち、私達はみな、神の性質を自分のいのち

に求めるよう求められているのです。たとえば、恐怖という偽りの神が支配しようとしているとき、ただ一人います神の性質—勇気あるいは信頼という性質が自分のいのちに宿るよう求めるべきです。怒りという偽りの神の代わりに、愛や同情、理解が自分のいのちに宿るよう求めるべきです。不安という偽りの神の代わりに、平安の君が自分の内なる世界を治めるよう求めるべきです。独善という偽りの神の代わりに、神の王国と神の正義が自分のいのちを支配するよう請うべきです。私達が神のみ名を求め、その性質が自分のいのちに宿るよう求めればいつでも、これらの性質は与えられます—喜んで受けようとするだけ。「あなたがたが父に求めることは何でも、父は、わたしの名によってそれをあなたがたにお与えになります。あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。」(ヨハネ 16:23-24)、とイエスがおっしゃったとおりです。

アッラーフ(Allah)は、アラビア語で「唯一の神」を意味する言葉。

次の例は、30歳の秘書が休暇中にモーテルのオーナーの不調法さに怒ったときの話です。普通には彼女はモーテルのオーナーを避けるか、素っ気なくすると思います。しかしその代わりに、彼女は「神のみ名を呼ぶ」ことを思い出し、愛と思いやりを神に求めました。:

この週末に、三泊四日の予定で海に行きました。宿はモーテルです。部屋は幾分みすぼらしく、仕切りは破け、灯りには電球がなく、たんすの引出しは砂だらけです。夕食に出かける途中、フロントに寄り、電球をつけてくれるよう頼みました。そして仕切りを直し、タオルをいくら余計にもらうつもりでいました。しかし、やってきてオーナーは、私が夕食の邪魔をしたと怒ります。私はわびて、必要なものを言いました。すると彼女は電球を渡してくれました。

夕食への道すがら、私は友人にその出来事を語ると、友人はオーナーの無礼さにあきれ返っていました。ええ、普通ならあのモーテルのオーナーのような人物は遠ざけるか、次に彼女を見たとき、素っ気なくします。しかしそのとき私は主の愛と思いやりという性質を思い出しました。私は無視という偽りの神に仕えることを拒み、その想いを受け付けませんでした。すると、食事が終わり、モーテルへの帰り道、私は花屋に駆け込み、オーナーに華やかに飾った花束を買い求めました。友人は私がおかしくなって金を無駄遣いしたといっています。

モーテルに戻り、オーナーの事務所に言って、花束を渡しながら言いました。「さっきはちょっと気がたっていたみたいですね。これであなたが明るくなればと思って」。オーナーは微笑んで感謝し、彼女はいつも気が立っているのだと答えてくれました。ええ、その時以来、私が見ると彼女はいつも微笑んでくれます。チェックアウトのとき、好きなだけいてくれていいとも言ってくれました。三度ほど電話をしたのですが、それはただにしてくれました。奇跡みたいでしょう？

本当の奇跡は、三度の電話代が無料になったことではなく、休暇中の若い女性の中で起こった態度の奇跡的な変化であり、そしてそれが他人に及ぼした効果です。若い女性は、自分のうちに沸き起こる、モーテルのオーナーを嫌おうという感情を認め、その偽りの神に「拒否」あるいは「無視」と名づけました。これら偽りの神に名を与えることは、彼らに仕えないようにする第一歩です。そのとき彼女は「神のみ名を呼びました」。そして彼女は愛と思いやりを求めて祈り、その祈りは聞き入れられました。祈りのおかげで、彼女は心の変化を体験しモーテルのオーナーの顔に微笑みを見る喜びを得たのです。

次の例は、ある受刑者が、うまくゆかない房の友人に変化があるよう一年かけて祈ったものです。この戒を聞いて、房の友人の変化ではなく、心の変化を祈るべきだと気づきました。こう書いています。:

この過去数年の間、房の友人は、わたしの人生をみじめなもととしていました。授業で神を呼び、神のみ名(神の性質)をみだりにしないことについて語りました。私達は、愛や同情そして忍耐という性格を神に求めて祈っていたと思います。先生が、私は愛の気持ちを求めて祈ることができるはずだと教えてくれたとき、私は驚きました。過去数年私は房の友人が変化してくれるよう祈りつづけていました。私は神がすばらしいチャンスを与えてくれたことに気づいていませんでした。

そこで私は「神のみ名をみだりにしてはならない」という課題に取り組みました。今週は、房の友人を愛することができるように祈ったのです。この男のために私は真剣に祈り始めました。すると何が起こったか？彼が変化したのです！

この受刑者の祈りへの回答は、実は監房内での友人の地位の変化ではありませんでした。それよりも本人が友人を愛することができることを求めて祈った、彼の存在の根本に起こった変化です。

次の記事は、42歳の母が、神の性質を求めて祈ることの必要性和、それをみだりにしてはならないことに気づいたものです。彼女は車の中で遅れた娘を待っていました。当時の自分を「怒り、むしゃくしゃして、腹にすえかねていた」と書きしるし、自分の心をすっきりさせ、自分に不足している性質を求めようと祈る、自分の葛藤を語っています。:

私の十代の娘はソフトボール練習をしていましたが、その迎えに行きました。いつもの迎えの時間に高校に着きました。:しかし娘の姿は見えず、15分ほど待ちましたが、ベサニーは来ません。別の場所で、次の子を迎えにゆかねばならず、時間もなく、待つ余裕もありません。「なぜあの娘は、自分の責任を分かってくれないのかしら？」私には全く問題がないと確信していました。

他の親に確認して、娘のチームの試合は終わったはずなのに、いつもどるか分からない状態であるとわかりました。車の中に座り、娘に対して怒り、いらいらしながら、自分が今の状態をどうにもできないことに腹を立てていました。すると、クラスの課題を思い起こしました。「神のみ名をみだりにしてはならない。祈りを思い出しなさい」。それはショックでした。今の心の状態を変えるのはほとんど不可能のように見えますが、天は、私が今それを必要としていることをご存知です！

そこで、私は祈り、祈り、祈りました。私がどんな態度であったか気づきました。非難しすぎ、支配しようとしすぎ、そしてそれをすべて正当化していました。私は祈り、忍耐や理解、受容力、娘への愛を求めました。すると私自身、今まで何度も人を待たせたことを思い出しました。;私も連絡するの忘れたことがあったのです;私の娘は本当はいい人間です。彼女が娘でいてくれて、自分はなんと幸せなんだろうと何度も言ったことがあります。それなのに、何故今、彼女を責め苦しめているのでしょうか？

これら様々な見方、それに対する感情がまだわたしに浮かんでくるので、ラジオをつけて、がまんしようと思いました。

45分たって、娘のバスが到着しました。娘は車に乗り込んで、私が怒っていないか窺います。心配そうな顔に、私は笑顔で応えます。「ママ、怒ってる？」

「いいえ」と答えた私は、もはやすでに落ち着き、娘に対する心からの愛情で一杯です・

「どうして？」娘は問います。

私は淡々と答えます。「あなたがいなかったのも、それなりに何かわけがあるのだと思っていたわ」。娘は安心して、「本当にごめんなさい。どれくらい待ったの？」と言いました。「45分くらい」と言った私の声には、責める色などありません。娘はまた謝り、私たちは抱き合います。祈りが、「正当な」怒りを娘に向けるのを押しとどめ、娘にいいわけを考えるよりも謝る余地を与えてくれたようです。本当にいい経験でした。

この母親は「娘を待っている」間に、腹を立ててしまいました。しかし彼女が神のみ名を呼ぶことを思い出した瞬間、すべては変わってしまいます。自分の怒りといらだちを正面から受け止めたとき、天の王国、すなわち忍耐と理解、そして寛容を求め、受け入れる道が開けました。彼女も書いています。「私自身、今まで何度も人を待たせたことを思い出しました。……私の娘は本当はいい人間です。彼女が娘でいてくれて、自分はなんと幸せなんだろう」。

私たちは、神の性質が、短気ではなく、辛抱強さであることを知っています。また恨みではなく、理解であることも。もし神の辛抱強さと理解を求めらるなら、得ることができるのです。同じように、ただ怖れることよりも、勇敢であることを選択することができます。臆病よりも勇気を、不平や批判よりも愛と思いやりに満たされることができます。これは決して新しい考えなどではなく、いにしへの知恵です。旧約聖書にはこうあります：「私は、いのちと死、祝福とのろいを、あなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。」(申命記 30:19)

新約聖書でも同じメッセージがあります。「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます」。(マタイ 7:7)

私たちが与えられるものとは何でしょう？何が見つかるのでしょうか？何が開かれるのでしょうか？天のみ国以外の何ものでもありません！そしてそのみ国とは、神の数多くの性質です。これらの贈り物はいつ、誰にでも与えられる、永遠の神の贈り物です。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい』(25:34)、で意味されていることです。それ、すなわち全きいのち、はすべてそこにあり、求められるのを待っています。そこにあつて、祈りが必要なだけです。セミナー参加者が言ったように、「いただける物をいただくだけ！」

最後に、祈りは個別具体的である必要があります。先の章で、自分が仕えようとしている偽りの神の名を、特定するよう求められました。この戒でも、同じように、偽りの神をあがめようとするたびに、自分に欠けている性質を特定しなければなりません。大学教授の記事です：

新学期の始まりですが、夏休みがもっと続いてほしい；まだじっくり充電できてないのです。新しい教科書が二冊、わずらわしく、都合の悪い時間割、それによけいな仕事が付加えられ、わけのわからない、やっかいな政治的な意図がみえます。家のパソコンはへたっているし、歯の治療までする必要が出てきました。まわりのすべ

てが、自分をむしりつつているような感じです。普通、こんな状態なら、私の祈りは、意味をなさないわめき声となってしまうでしょう。神様がすべてわかってくださると思って。しかし今や、私の祈りはきわめて明瞭です。こんなふうに；「主よ、わかりました。私には、熱心さが必要です。」、「主よ、X君に接しなければならないのですが、かつとなりませんように。そのときはもっとましな状態になっていますように」。

この週のはじめは、平穏で静かでした。ある朝、車でとうもろこし畑を通り抜けながら、私は平安と自信を求めて祈りました。その日計画していた講演はうまくゆきました。多すぎる仕事につぶされそうな同僚を旧い賛美歌で励ますことすらできました。：「魂が主を求め、信頼するものは幸いである。その者たちは神をたたえ続ける」、人生はすばらしい。

主のみ名をみだりにする

残念なことに、神の性質がそこにあって、「ただ取るだけ」であっても、私たちは時折それを「みだりに」しています。この戒で言及されていることに、今一度注目してください：「あなたは、あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。主は、御名をみだりに唱える者を、罰せずにはおかない」。この短い戒の句の内に、「みだりに」が二度も出てきます。これは、神が私たちに素晴らしい性質を与えたいとお望みになっていることがよくわかります。私たちが求めるかぎり、そしてその性質を自分のものにしようとするかぎりにおいて！ そうでなければ、人の祈りは空っぽです；その祈りは、「みだりに唱えられる」もの以外、なにものでもありません。私たちは自分のことを、「キリスト教徒」、あるいは「イスラム教徒」、「ヒンズー教徒」、「仏教徒」、「ユダヤ教徒」であると言っています。しかし神がいつも分け与えようとされている神的な性質を、受けようとしないのであれば、神にどんな名を帰そうとも、それはみだりにすることになります。そのとき、私たちは、新しい自転車を欲しがりはするけれども、手に入れると雨で錆させてしまったり、新しい服も床やダンスの中で、そのまま皺くちやにしてしまう子供と同じです。神のご性質は、私たちのものであり、求めるだけでなく、使わねばならないものです。

神の性質を活用しないことで、神のみ名をみだりにしてしまうという考え方は、いろいろなことに応用できます。次の例では、様々な文化や宗教的背景を持った方々が、神の名をみだりにしてしまうことについて語っています。ある囚人は、食事の際に、自分が「神のみ名をみだりに」してしまったことを発見しました：

自分の性格の内に、このネガティブなことが深く根づいてしまっています。私の偽りの神は、不平不満です。私は神に食事の感謝をしながら、食事の内容に文句を言っています。

神のみ名をみだりにする一般的な方法に、礼拝に参加したり、宗教的な教えを授かりながら、それをを用いないことがあります。ある受刑者は、刑務所内での朝の礼拝のときの自分と、礼拝後の自分の行動をこう振り返っています：

神のみ名をみだりにするとは、自分がムシヨ仲間と共に教会の岡に登りながら、その岡から降りてくると、エロ本をわけあうようなものです。このエロ本を持っていた手は、さきほど高きにむかって神をほめたたえ差し上げていた手と同じです。自分が「神のみ名をみだりにして」いることがよくわかりました。

次は、若いアフリカ人が、宗教的教えを「みだり」にしていたことを見出しました：

授業が始まったころ、先生はエゼンコロ(宗教教育)と呼ばれる教育をほどこしてくれました。絵がぜんぜんなかったのも、全く興味をもてませんでした。先生が授業を終えたとき、私は一言も覚えていませんでした。神のみ名をみだりにしてしまったのです。

スーフィ教で次の話がありました：

ムスタファが宗教の勉強からもどってきたとき、親がその日クアルーンから何を学んだか言ってみなさいと求めました。

ムスタファは親に、クラスメートが与えられた教えを守らないことだけを述べました。両親は息子の不満に、じっと耳を傾けていました。息子の話を聞き終わると、おまえが聖なる書から学んだことがそれだけなら、クアルーンを全く聞かないほうがよかった。

これらの例は、真の祈りは、自分のいのちに神の性質を求めることだけではないことを思い起こさせます。それよりも、むしろ、その性質を、自分のいのちのいたるところで活用することにあります。そうでなければ、私たちは神のみ名を「みだりに」してしまうのです。

祈りを忘れない

すべての宗教は、祈りが霊的生活の本質的な部分であることを認めています。私たちのほとんどは、忘れず祈るために助けを必要としています。そのため、このセミナーでこの戒を説明する際、参加者は小さな「ポスト・イット」の束を受け取ります。そして、これで祈りを忘れないようにします。参加者は、そのポスト・イットすべてに「祈り」に関する言葉を書かされます。家に帰ったとき、目立つ部分を考えて、その「祈り」のポスト・イットをいたるところに張り付けます。そうすることで、どこにいても、いつでも祈ることができるようになります。若い母親が書いています：

「祈り」のノートを、目立ついろいろなところ、例えば、バスルームの鏡や、台所のシンクに張り付けました。でも、この週で最も眼をひいたのは、寝室のドアの目線の高さに貼ったものでした。それは、「あなたは今パーソナル・スペースから、他の人がいるところに出ようとしています。祈りを忘れないように」と、語りかけてくれます。単なる思いつきで、そこに貼ったのですが面白いものです。しかしそこが私には一番重要なものとなってしまいました。主のみ業は、不可思議です。

이메일의参加者は、同じような経験を書いています：

ある土曜日、私も夫もパソコンを使いたくて、私がパソコンを立ち上げたのですが、自分のことだけしか考えませんでした。夫が何度かきて、私の用事が終わったかどうかを尋ねます。ちょうど私は調子があがってきたところです。もっと後に来てくれればいいのに、なんだろうこの人はとおかしな考えに囚われ、怒った口調で、いいわよといいながら、いやちょっと待ってと撤回しました。夫は怒って、ちょっと言い争いになってしまいました。

言い争いながら、ポスト・イットを見つめていました。「祈り」、「神のみ名を呼ぶ」、「抑えて、そして祈れ」。すると、私はさらにいらいらしてきて、言い争う代わりに、自分がなすべきことを思い出したくなかったので、部屋を出てしまいました。しかし、私は、ポスト・イットから逃れられないように、家の至る所にそれを張り付けていたのです！

どこを見ても神のみ名を呼ぼうとのポスト・イトで一杯になっています。ついに私は口を閉じて、耳を傾け出しました。だまることで、言い争いがばかげた方向に行っているのがわかり、じっと耳をかたむけることで、言い争いは終わりとなりました。

この課題に感謝します。もし、ポスト・イトが優しく思い出させてくれないなら、言い争いと破滅がつきまとう、私の偽りの神がどれだけねばったことでしょうか。

祈りを思い出せノートは、えてして私たちがちょうど必要としているもの、神のみ名を呼ぶための覚え書きです。しかし、どんなにたくさんの覚え書きが、目の前にあったとしても、絶対に祈りたくないときがあります。

セミナーの参加者はこう書いています：

それは、大変な一週間でしたー主への祈りがどんなに大切なかがわかりました。その心の状態で興味をひいたのは、私はその時あまりに低い状態にいたので、祈ろうと冷静に考えても、自分に「でも、祈りたくない！」と言っているのです。そのため、心を開いて神に祈ることができるように、祈らなければなりません。

私は「地下室」にいて、新鮮な空気を得て、頭をはっきりさせるため、一階に出ようともがいているように思いました。

そう、心がいい状態のときは、祈りはいいものです。小さなポスト・イトや、もっと瞑目できるような状態である「急いで祈れ」を見ることができるようになります。祈りを通して、神と天使に結ばれることで、自分がこの週の終わりまでには、もっと健康的な心の状態になれると信じています。

この手記は、私たちの霊的旅路を進むに当たって、厳とした事実の一つを思い起こさせます：私たちが一番祈りを必要とするような時こそが、もっともそうしたくないと思うときなのです！偽りの神である、頑固や、わわがまま、思いやりのなさが自分を支配しようとするときを覚えておいてください。厳しい奴隷監督の正体が暴かれ、慎ましく優しい性質に代わります。祈りたくないような時、私たちができることは、喜んで祈ることができるようお願いすることです。ちょっとやりすぎのように見えるかもしれませんが、霊的な成長の道を進むに当たって、重要なことです。

最後に、「神のみ名を呼ぶ」ことは、魔法の呪文ではないことを強調しておきます。その名が意味することを理解せずに、単に聖なる名を呼ぶという魔法をやっても無駄なことです。「神のみ名」は、生ける神の性質を意味します。それはいつも私たちと共にあり、自分たちのいのちに神的性質を受け入れるように求めている神です。私たちがやるべきことは、これらの性質に自らを開き、受け入れるkとおができるよう祈り、いのちの中でそれを活用することです。それはいつでも「取ることができるよう」そこにあります。しかし私たちは、求めねばなりません！

課題：神のみ名をみだりにしない/ 祈り

他の神を崇めてはならないという戒では、自己点検に時間をかけました。自分が仕える、たくさんの偽りの神を探し出し、自分がどこまで囚われとなっているかを見つめました。この種の自己点検は、次の戒への道を備えてくれます。自分が偽りの神に支配されていることを発見したとき、それに名付けるだけでは十分ではありません。さ

らなるものを必要とする時があります。これが、「神のみ名を呼ぶ」時です。これは祈りの時です。そのとき欠けている性質を、得るように、祈ってください。その性質によって、神があなたと共にいることになります。祈るときは、個別具体的にしてください。神の勇氣、神の忍耐、神のねばり強さ、神の慈悲深さ、神の正しさなどを求めて下さい。言い換えれば、神のみ名を呼んで、神のみ名をみだりにしないでください。

課題

神のみ名をみだりにしない/ 祈りなさい

偽りの神が支配しようとしているのに気づいたなら、名付けてください。そして不足している個別の性質を求めて祈りましょう。この戒を守ることによって得た体験を書き記してください。

*****さらなる瞑想と応用へのヒント*****

瞑想: 「み名が崇められますように」

主の祈りの最初の言葉は、ただ一人の真の神がおられることを思い起こさせてくれます。次の部分は、どうやって神に語りかければいいのかを教えてください。:「み名が崇められますように」。この戒を守るために、「み名が崇められますように」の部分、霊的な訓練として瞑想してみましょう。毎日、何分か心に「み名が崇められますように」という言葉だけを思い浮かべます。そしてそのとき、ただ一人います真の神の、多くの性質がそこにあらわされることを思います。

手記への記入

手記に、自分の名が、自分にとって何であるか、書いてみましょう。自分の名が与えられたとき、どんなことがあったか知っていますか？それから何年も経って、あなたの名は違った意味や重要性、または、性格をもつようになりましたか？

活動: 神の性質を特定しましょう。

神の様々な名のリストを作りましょう。これらの名それぞれと個別の性質を特定しましょう。例えば、「父」は信頼と尊敬を意味します;「聖なるお方」は、慈愛と知恵の性質をあらわします。

手記

昔の祈りと最近の祈りを、同じように書き出してみましょう。祈りはあなたの生活の一部となっていましたか？どんなふうにか？今、祈りは生活の一部ですか？どう祈っていますか？いつ、どこで祈っていますか？祈ると心が安らぎますか？

活動: 「ポスト・イット」を使いましょう

ポスト・イットノートの小さな束を購入します(1.5インチ x 2インチがおすすめ)。「祈りましょう」、「祈り」、「(平和・忍耐・勇氣他)~を求めて祈りましょう。」と書き込みます。これを祈りを思い起こさせるもっとも効果的な場所・タイミングを兼ね備えたところに貼ります。車、パソコン、台所のシンク、寝室のドア等です。祈りが、息をするように生活の一部となってしまうように、必要なだけまわりをこのポスト・イットで埋め尽くしてみます。(紙片やテープでも可)

活動: いのちを選びなさい!

第一章で作った「偽りの神」のリストにある、ただ一人います真の神の性質と対応するものを見つけます。これらが、自分が特定の偽りの神を崇めているのを発見するのに、欠けている性質でもあります。例えば、「不安」には、「平安」と「信頼」そして「受容」を、という具合です。対応するものがたくさん見つかるはずですが。(後の、「一人います真の神の性質」参照) この活動を行うとき、イスラエルの子孫たちに語られた主のみことばを心にとめておいてください:「見よ。私は、確かにきょう、あなたの前にいのちと幸い、死とわざわいを置く。・・・しかし、もし、あなたが心をそむけて、聞き従わず、誘惑されて、ほかの神々を拝み、これに仕えるなら、きょう、私は、あなたがたに宣言する。あなたがたは、必ず滅びうせる。あなたはいのちを選びなさい。あなたもあなたの子孫も生きるように」(申命記 30:15, 17-19).

活動: 霊的アスリートたれ

世界のアスリートは、おのおのの運動を行う前に、何度も何度も、頭の中でイメージを作り上げます。ダイビングや、フィギュアスケート、平均台やゴルフのスウィング、この種のイメージ・トレーニングは様々なところで見つけることができます。同じようにこの戒を守る段階では、イメージ・トレーニングを行うことで霊的成長に資することができます。今日あるいは今週おこるであろう出来事に備え、偽りの神を指摘し、足りない性質を求めて祈るイメージ・トレーニングを行ってください。霊的アスリートとなってください。

活動: 大失敗を成功に変えましょう

この活動は前の活動に似ています。ただ、ある戒や他の戒を守れなかったときに行うのが、この活動です。そんなときには、自分の失敗を心の中で何度も何度も繰り返すよう、誘惑されます。その代わりに、そのシーンを思い出し、違った結末をイメージします。そのときは、自分が戒を守り切れたとします:偽りの神を見出し、自分に足りない性質を祈ります。自分が失敗したシーンを成功に変えて、祝福としましょう。

活動: 進んで祈れるよう、祈りましょう

偽りの神を見つけ、自分に欠けている性質を求めて祈ることは、得てして本人には最もいやなことです。そんなときには、進んで祈れるよう、静かに神に祈りましょう。この活動は、祈りたくない時にやってみてください。何が起こるでしょうか!

一人います真の神の性質 サンプル例

愛 親切 慈しみ 勇気 ユーモア 忍耐 寛大 寛容 信任 強さ 行動 秩序

楽観主義 喜び 信仰 貞節 謙虚 満足 許し 平穩 優しさ 仁愛 知恵 感謝 安定

平和 励まし 尊敬 賛美 安息 陽気 無垢 信頼 誠実 正直 感謝 平安 知性